

9. 旅人と地元民の心をつなぐ「おもてなしサロン」へようこそ（室蘭）

（応募チーム：U-18 おもてなし室蘭）

（評価）

長期的な人口の減少に直面する室蘭の現状を打開し元気にしたいという願いから、室蘭の高校生チームが室蘭市との意見交換を重ねながら真剣にこの問題に向き合い、室蘭港で下船をするが素通りしてしまう観光客の一部でも室蘭に引き寄せるアイデアを考案したことは素晴らしい。その際のポイントとして、観光客の高校生たちの独自アンケートから「地元民とのあたたかい交流」を望んでいて、それに着目した室蘭のアクティブシニアや現役の大学生も幅広く活躍するおもてなしのアイデアであったことはコースとシーズに沿った実現性の上でも高く評価したい。

（アドバイス）

（１）実現のための「おもてなしサロン」市民本部（仮称）の設置

今回のアイデアは地元の高中生たちの作品であったので、リーダーとしてプレゼンの発表を行った二人とも高校生は卒業して室蘭を出て地元を離れている。このため、このアイデアは実現の日の目を見ないままになるのか、今後宮古－室蘭間にフェリーを就航させる予定のフェリー会社が事業として手掛けるのか不明である。ここではアイデアにもあった室蘭のアクティブシニア層に頑張ってもらい「おもてなしサロン」市民本部（仮称）をボランティアで設置していただいて、実施に移されたいかがでしょうか。このつなぎを室蘭市ないし指導された高校の教員に期待したいところです。なお、実施段階で地元の高中生たちの協力が必要な場合には先輩たちの残したアイデアの実現への課外活動的なサポートをして、高齢者から若者までの室蘭一体となった「おもてなしサロン」に育っていくものと期待されます。

そして、このアイデアが動き出した暁には、アイデアを考案した地元から離れた高校生たちの帰省の際の機会などを利用して、その後の進展ぶりを評価してもらおうのも一案でしょう。

（２）おもてなしサロンのメニューと料金

おもてなしサロンのメニューとして、数多く並んでいるが、内容は観光地に典型的なメニューのようにも見える。「地元民とのあたたかい交流」にさらに着目して、観光客のより詳しい希望を引き出す聞き取りをするなり、観光客と行動を共にしてみるなりで、室蘭に来る観光客ペルソナを描き、「地元民とのあたたかい交流」を前提にしたメニューを磨いて「人との交わり室蘭サロン」（仮称）を付設しても良いかもしれません。全般的に料金が高めではないか、各メニューの観光客は少ないのではないかと印象を受けるので、以上の工夫を加えてメニューを絞るなりの工夫をすればさらに観光客にとって魅力が出るのではないかと思います。

（３）室蘭市への期待

今回のアイデアが例えば上記（１）などのような形で実現するよう引き続き、市民／学生のサポートをプラットフォーム的な形で支援されて行かれたらと願っています。